

## 心の栄養剤NO117「小学1年生のすごい詩」

私は看護師として20年以上勤めています。  
最初は、家計の足しにと始めたこの仕事も、今では病棟主任として何かと仕事を背負い込む立場になり、家庭の仕事も疎かになりがち。子育てもそっちのけで仕事中心の生活となってしまいました。そんな生活でしたが、三男が小学1年生のとき、先生から・・・

「お母様はとってもお忙しいながら、とても素晴らしい子育てをなさってきましたね」

と言われ、息子の書いた詩を見せていただきました。それがこの詩です。

### 【おかあさんのて】

ちいさいころから ぼくをみまもってくれた  
おかあさんのて  
いまもまだおぼえている

おかあさんのあたたかいて  
りょうてでぎゅっとだいて  
みるくをのませてくれた

おでかけするとき は てをつないでくれる  
あたたかいて

「がんばったね」  
ぼくのあたまを  
やさしくなでてくれるて

おかあさんはそのてで  
おりょうりをつくったり  
おそうじをしてくれる  
かんごふのしごともしている

かんじゃさんをおふろにいれているて  
おくすりをそろえているて  
いたいところをさすってあげているて  
おかあさんのてでさわられたひとは

あたたかくなる  
とてもきもちよくなる

おかあさんのではおおいそがしたね

こんどはぼくが  
おかあさんのでのかわりになってあげるよ

忙しさにかまけて、黄色い帽子のゆるんだゴムさえ直せずにいる母親のことを私の知らないところで、こんなにも誉めてくれていました。

仕事をしているところなんて見せたこともないのに理解してくれていたのかな？

とてもうれしく、そして少し不憫にも感じました。息子が私を思う愛情に負けずに私も息子を愛してあげないといけない。

帰ってから、息子にお礼を言ったら、こんなことを言われました。

「おかあさんがなんでも一生懸命なのはな、  
においでわかるよ」

「ぼくはおかあさんのにおいが大好きだもん」

「におい」か……………

当たり前ですが、世の中すべての男性にも女性にも、お腹を痛めてこの世に産んでくれた母親の存在があり……

**生きている事イコール母親のお陰**と言えます。私の82歳となり身体も少し不自由になった母も、いまだに逢うたびに56歳にもなる私を気づかい心配してくれます。

まさに「**親思う心にまさる親心……**」という吉田松陰の辞世の句のフレーズが頭によぎります。

今月10日は母親への感謝の気持ちを表す「母の日」です！今年こそは照れずに**母へ精一杯の"ありがとう"**を伝えようと思っています。

